

参考

●上村松園

- ・「序の舞」[重要文化財] 昭和 11 年(1936) 東京藝術大学蔵
2017 年に修理完成後、初の外部での展示となる。松園自身が「私の理想の女性の最高のものと言ってもいい」と自著「青眉抄」で語っているように松園の美人画の代表作である。
- ・「雪月花」昭和 12 年(1937) 宮内庁三の丸尚蔵館蔵
大正 5 年に貞明皇后の用命を受け、20 年にも及ぶ歳月を経て完成された作品。松園の思い入れも強く「心残りなく描けた努力作」と語っている。



上村松園「雪月花」



上村松園「序の舞」[重要文化財]



上村松園「鼓の音」



- ・「鼓の音」昭和 15 年(1940) 当館蔵
1940 年のニューヨーク万国博覧会に出品されたもの。当館を代表する松園作品の一つ。残された松園の写真には、鼓を打つ姿もあり、まさに今、打たんとする手の指先までの的確に表現されている。

- ・「月と花 (藤原時代春秋)」昭和 8 年(1933) 個人蔵
本展で初公開される新発見の作品。高松宮妃喜久子殿下の実家(徳川家)から新築祝いに、高松宮家への御用画として制作されたものである。

(左) 上村松園「月と花 (藤原時代春秋)」

●上村松篁

・「丹頂」昭和55年(1980) 当館蔵

当館を代表する松篁作品の一つ。雪原に佇むつがいの鶴を、清澄で格調高く描いた作品。対幅で一つは立鶴、一つは雪の竹に半分かくれて羽をふくらませて佇む雌鶴である。



上村松篁「丹頂」

・「星五位」昭和33年(1958) 東京国立近代美術館蔵

当時、奈良平城のアトリエ喉禽荘で飼育されていたゴイサギを基にした作品。若いゴイサギには独特の斑点があり、ホシゴイ(星五位)と呼ばれる。翌34年に芸術選装文部大臣賞が授与された。理知的な造形性を持ち、重厚な筆致で描かれている。



上村松篁「星五位」

・「立葵」昭和46年(1971) 京都市立芸術大学芸術資料館蔵

花が最も美しく見える期間は短く限られている。「毎年毎年、写生をするが、ちょうど良い時期に写生ができ、念願を達した」と松篁が言う作品。



上村松篁「立葵」

・「樹下幽禽」昭和41年(1966) 日本芸術院蔵

松篁が憧れを持ち続けた熱帯の奥深い楽園を想像に描かれた。桃の木に集うシマハッカクと熱帯の小鳥たち。翌42年に日本芸術院賞が授与された。



上村松篁「樹下幽禽」

○松伯美術館について

松伯美術館は、上村松篁・淳之両画伯からの作品の寄贈と近畿日本鉄道株式会社(現 近鉄グループホールディングス株式会社)からの基金出捐により 1994 年 3 月に開館した。

当美術館では、上村松園・松篁・淳之三代にわたる作品、下絵、写生等、美術資料の収集と保管、展示を通じ、三代の画業を紹介することを目的としている。また、広く日本画の普及、作家の育成を図るため、特別展、公募展等も開催している。

○当館の名称の由来

「松」は、松園・松篁両画伯の名前と、美術館所在地である故佐伯勇近鉄名誉会長旧邸の庭に植えられている百数十本の松に、「伯」は、画伯の伯と佐伯氏の伯あるいは邸内の茶室の号、「伯泉亭」に由来するものである。また「松伯(しょうはく)」の音は、常磐木である「松柏」にも通じるようにとの意味が込められている。



松伯美術館 (外観) ※大洲池の対岸から臨む。

【開館時間】	10 時～17 時 (入館は 16 時まで)
【休 館 日】	月曜日、年末年始、展示替期間
【電話番号】	0742-41-6666
【所 在 地】	〒631-0004 奈良市登美ヶ丘 2 丁目 1 番 4 号
【館 長】	上村 淳之 (うえむら あつし)
【所蔵作品数】	上村松園・松篁・淳之の作品 約 600 点 ほか

●上村松園

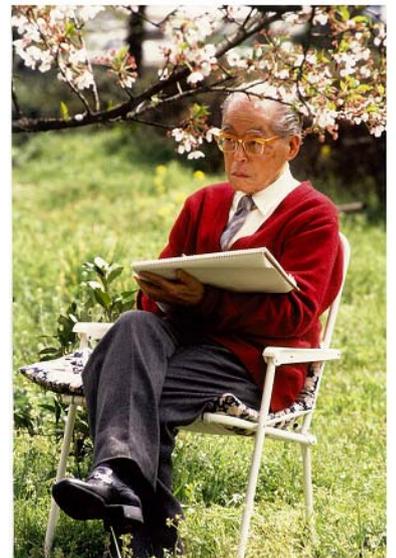
明治 8 年(1875)～昭和 24 年(1949)
京都に生まれる。鈴木松年、幸野樗嶺、竹内栖鳳に師事。1948 年、女性として初めての文化勲章を受章。
京都の風俗、歴史、謡曲の物語等に取材した気品ある格調高い女性像を描く。

●上村松篁

明治 35 年(1902)～平成 13 年(2001)
京都に生まれる。母は上村松園。京都市立絵画専門学校に学び、西山翠嶂に師事。
1948 年、日本画団体「創造美術」の結成に参加。1984 年、文化勲章受章。近代的造形、色彩感覚を取り入れた花鳥画で知られる。



上村松園



上村松篁